日本体育大学紀要 36 巻 1 号 (2006) 55-76

[原　著]

「子どものからだの調査 2005」結果報告

—"からだのおかしさ" の教育者の実感とその実体の究明—

阿部茂明[*1]・野井真吾[*2]・野田　耕[*3]
成田幸子[*4]・正木健雄[*5]

(2006 年 5 月 8 日受付, 2006 年 8 月 9 日受理)

A Report on the Results of a Questionnaire on the Teachers' or the Yogo Teachers' Actual Feeling According to the "Abnormalities" in Physical Function among the Japanese Children in 2005

—An Actual Feeling and Substance of "Abnormalities in Physical Function"—

Shigeaki ABE, Shingo NOI, Koh NODA, Sachiko NARITA
and Takeo MASAKI

We continued investigating the "actual feeling" about the "abnormalities in physical function" of Japanese children by the teacher and/or yogo teacher in the spot of childcare/education in an interval about 5 years from 1978. This project was enforced because the last research was before just 5 years. The distributed question paper was 2,051, and the collected number was 951 (46.4%). Numbers of question for preschool and kindergarten were 51 items, 66 items for elementary, junior high and high school.

The results were summarized as follows;

1) It was expected that the progress of "abnormalities in physical function" of children was not being stopped yet.

2) The substance of "children immediately said "I was tired" was guessed developmental disorder and physical disorder of automatic nervous system and/or developmental disorder of prefrontal cortex.

3) The various investigations concerning children's physical function were proved that an antenna of teachers' and/or yogo teachers' actual feeling was expensive, and sensibility was well.

4) A future study subject was the creation of practice based on scientific hypothesis. Thus, it was requested that the facts of "abnormalities in physical function" more became clear.

Key words: child, "abnormalities in physical function", actual feeling, disorders of physical function, developmental disorders of physical function

キーワード: 子ども, "からだのおかしさ", 実感調査, からだの不調, からだの発達不全

*1 日本体育大学女子短期大学部, *2 埼玉大学, *3 九州共立大学, *4 前・日本体育大学, *5 日本体育大学

1. 目　　的

われわれは，子どもの「からだのおかしさ」について，保育や教育の現場で“実感”されていることを1978年からほぼ5年ごとに調査してきた[1~4]。このような“実感”について調査をした結果は，子どものからだの変化をとらえるのに有効であり，見当違いの対策を正し，からだの変化にかみ合った適切な対策を立てるのに非常に役立ってきている[5~7]，とわれわれは考えている。

そこで本研究では，前回（2000年）調査からすでに5年を経過し定時調査の時期になったので，子どものからだのおかしさの“実感”が保育・教育の現場で現在どのように推移してきているかを明らかにするために継続調査を行い，その結果ならびにこれまでの先行実感調査および研究等による知見も加味して，子どもの「からだのおかしさ」の実体を究明し，その課題を明らかにすることを目的とした。

2. 方　　法

2.1 実感調査の項目

「子どものからだの調査2005」では，前回調査の「子どものからだの調査2000」[4]における回答率の状況とその後の子どものからだの問題状況とを考慮して，乳幼児用調査，児童・生徒用調査ともに7項目（「つま先立ち歩きの子」，「手足が冷たい子」，「口で呼吸している子」，「発音の仕方が気になる子」，「体が硬い子」，「自閉的な傾向がある子」，「床にすぐねっ転がる子」）を増やし，乳幼児用調査51項目，児童・生徒用調査66項目とした。調査内容はこれまでの調査と同様，以下の4群とした。

1) からだの活動性
2) からだの防御性
3) 直立姿勢や動作
4) 疾病・けが・その他

なお，質問項目の選択回答のうち，該当すると“実感”される子どもは“いない”の回答が100%となったとき，質問項目から除外することにしているが，前回の「子どものからだの調査2000」においては該当項目がなく，質問項目は増加する一方であった。

2.2 調査方法

都道府県ごとに系統抽出した対象保育所・幼稚園（施設長）ならびに学校（小学校・中学校・高校）長ならびに養護教諭に対して調査用紙を郵送し，保育者および教育者が勤務している施設・学校で，日頃の子どものからだ観察の“実感”に基づいて，“最近増えている”，“変わらない”，“減っている”，“いない”，“わからない”の5回答肢から一つを選択回答してもらい，郵送により回収した。

2.3 調査対象数と有効回収数ならびに有効回収率

	対象数	有効回収数	有効回収率（%）
保育所	419	201	48.0
幼稚園	405	188	46.4
小学校	713	306	42.9
中学校	314	151	48.1
高等学校	200	105	52.5
合　計	2,051	951	46.4

2.4 調査期間

2005年2月3日～3月31日

3. 調査結果

3.1 本調査の結果は，結果1～5（文末参照）に示したとおりである。

3.2 回収されたアンケートで「からだのおかしさ」が“最近ふえている”と回答したものが多い順に，上位10項目を「ワースト・10」として示し，全国的に比較できる過去の調査（1978年あるいは1979年，1990年，1995年，2000年）結果と対応させて示したのが表1である。

今回の調査では，保育所を除いたすべての段階のワースト1位が「アレルギー」であった。

また，ワースト10位以内で保育所と幼稚園で共通しない項目は，保育所での「そしゃく力が弱い」と「転んで手が出ない」，幼稚園での「発音の仕方が気になる」と「体が硬い」であった。

小・中学校ならびに高校段階においてワースト10位以内で共通する項目は，先に挙げた「アレルギー」に「すぐに“疲れた”という」，「背中ぐにゃ」，「平熱36度未満」，「症状説明できない」が加わり，4項目であった。

ワースト10位以内で小・中学校で共通する項目は，「視力が低い」の1項目であった。

ワースト10位以内で中学・高校で共通する項目は，「腹痛・頭痛を訴える」，「首・肩のこり」，「腰痛」，「不登校」の4項目であった。

表1 「最近増えてきてる」という“実感”ワースト・10（保・幼・小・中・高）

〈保育所〉 (%)

1979年	1995年	1990年	2000年	2005年
1. むし歯 24.2	1. アレルギー 79.9	1. アレルギー 87.5	1. すぐ「疲れた」という 76.6	1. 皮膚がカサカサ 77.6
2. 背中ぐにゃ 11.3	2. 皮膚がカサカサ 76.4	2. 皮膚がカサカサ 81.3	2. アレルギー 76.0	2. アレルギー 74.6
3. すぐ「疲れた」という 10.5	3. 背中ぐにゃ 67.7	3. すぐ「疲れた」という 76.6	3. 皮膚がカサカサ 73.4	3. 背中ぐにゃ 72.1
4. 朝からあくび 8.1	4. すぐ「疲れた」という 63.3	4. そしゃく力が弱い 71.9	4. 背中ぐにゃ 72.7	4. すぐ「疲れた」という 68.7
5. 指吸い 7.2	5. そしゃく力が弱い 59.4	5. 背中ぐにゃ 70.3	5. そしゃく力が弱い 64.3	5. 保育中，じっとしていない 68.2
6. 転んで手が出ない 7.0	6. ぜんそく 53.7	6. つまずいてよく転ぶ 54.7	6. ぜんそく 61.0	6. 床にすぐ寝転がる 64.2
7. アレルギー 5.4	7. つまずいてよく転ぶ 52.4	7. ぜんそく 54.7	7. 保育中，じっとしていない 60.4	7. そしゃく力が弱い 58.2
8. つまずいてよく転ぶ 4.9	8. 転んで手が出ない 48.0	8. すぐ疲れて歩けない 51.6	8. つまずいてよく転ぶ 58.4	8. ぜんそく 57.2
9. 保育中目がトロン 4.8	9. 指吸い 43.7	8. 朝からあくび 51.6	9. 朝からあくび 53.2	9. 転んで手が出ない 48.8
10. 鼻血 4.6	10. 朝からあくび 43.2	10. 転んで手が出ない 48.4	9. 転んで手が出ない 53.2	10. つまずいてよく転ぶ 47.3

〈幼稚園〉 (%)

	1995年	1990年	2000年	2005年
	1. アレルギー 72.3	1. アレルギー 74.8	1. アレルギー 82.7	1. アレルギー 77.1
	2. 皮膚がカサカサ 68.0	2. すぐ「疲れた」という 73.9	2. すぐ「疲れた」という 76.5	2. すぐ「疲れた」という 72.9
	3. すぐ「疲れた」という 57.8	3. 皮膚がカサカサ 68.7	3. 皮膚がカサカサ 69.1	3. 皮膚がカサカサ 66.0
	4. ぜんそく 54.9	4. 背中ぐにゃ 56.5	4. ぜんそく 67.3	4. 背中ぐにゃ 64.9
	5. 背中ぐにゃ 53.4	5. ぜんそく 53.0	5. 背中ぐにゃ 66.0	5. 床にすぐ寝転がる 60.1
	6. 腹痛・頭痛を訴える 41.7	6. つまずいてよく転ぶ 52.2	6. 保育中，じっとしていない 59.3	6. ぜんそく 59.6
	7. 転んで手が出ない 41.3	7. 朝からあくび 47.0	7. 転んで手が出ない 53.7	7. 発音の仕方 56.4
	7. つまずいてよく転ぶ 41.3	7. すぐ疲れて歩けない 47.0	8. つまずいてよく転ぶ 49.4	8. 保育中，じっとしていない 55.3
	9. 朝からあくび 40.3	9. 転んで手が出ない 43.5	9. 腹痛・頭痛を訴える 48.8	9. つまずいてよく転ぶ 47.3
	10. 棒のぼりで足うらを使えない 39.3	10. 腹痛・頭痛を訴える 41.7	10. 朝からあくび 47.5	10. 体が硬い 46.8
		10. そしゃく力が弱い 41.7		

表1 つづき

〈小学校〉 (%)

1979年	1995年	1990年	2000年	2005年
1. 背中ぐにゃ 44	1. アレルギー 87.3	1. アレルギー 88.0	1. アレルギー 82.2	1. アレルギー 82.4
2. 朝からあくび 31	2. 皮膚がカサカサ 72.6	2. すぐ「疲れた」という 77.6	2. すぐ「疲れた」という 79.4	2. 背中ぐにゃ 74.5
3. アレルギー 26	3. すぐ「疲れた」という 71.6	3. 視力が低い 76.6	3. 授業中，じっとしていない 77.5	3. 授業中，じっとしていない 72.5
4. 背筋がおかしい 23	4. 歯ならびが悪い 69.9	4. 皮膚がカサカサ 71.4	4. 背中ぐにゃ 74.5	4. すぐ「疲れた」という 69.9
5. 朝礼でバタン 22	5. 視力が低い 68.9	5. 歯ならびが悪い 70.8	5. 歯ならびが悪い 73.2	5. 皮膚がカサカサ 65.7
6. 雑巾がかたくしぼれない 20	6. 背中ぐにゃ 68.7	6. 背中ぐにゃ 69.3	6. 視力が低い 71.7	6. 症状が説明できない 63.1
6. 転んで手が出ない 20	7. 腹痛・頭痛を訴える 65.5	7. 腹痛・頭痛を訴える 66.7	7. 皮膚がカサカサ 67.4	6. 視力が低い 63.1
8. 何でもない時骨折 19	8. 転んで手が出ない 62.3	8. 症状が説明できない 63.5	8. ぜんそく 62.7	8. 平熱36度未満 60.1
8. 腹のでっぱり 19	9. 症状が説明できない 61.9	9. 平熱36度未満 60.4	9. 症状が説明できない 61.9	8. 体が硬い 60.1
10. 懸垂ゼロ 18	10. ちょっとしたことで骨折 58.4	10. 転んで手が出ない 55.7	10. 平熱36度未満 60.9	10. ボールが目にあたる 59.8

〈中学校〉 (%)

1979年	1995年	1990年	2000年	2005年
1. 朝礼でバタン 43	1. アレルギー 90.8	1. アレルギー 87.6	1. すぐ「疲れた」という 82.8	1. アレルギー 76.8
2. 背中ぐにゃ 37	2. すぐ「疲れた」という 83.8	2. 視力が低い 84.3	2. アレルギー 82.8	2. すぐ「疲れた」という 73.5
3. 朝からあくび 30	3. 視力が低い 78.1	3. すぐ「疲れた」という 71.9	3. 首，肩のこり 77.0	3. 平熱36度未満 68.9
4. アレルギー 30	4. 腹痛・頭痛を訴える 75.9	4. 腹痛・頭痛を訴える 71.1	4. 不登校 77.0	4. 視力が低い 67.5
5. 肩こり 27	5. 不登校 74.6	5. 平熱36度未満 70.2	5. 腰痛 76.6	5. 首，肩のこり 66.2
6. 背筋がおかしい 26	6. 皮膚がカサカサ 72.8	6. 不登校 70.2	6. 視力が低い 73.0	6. 不登校 64.2
6. なんでもない時骨折 26	7. 平熱36度未満 71.1	7. 首，肩のこり 69.4	7. なんとなく保健室にくる 71.9	7. 腹痛・頭痛を訴える 60.3
8. 貧血 22	8. 首，肩のこり 70.2	8. 腰痛 66.9	8. 腹痛・頭痛を訴える 70.4	7. 腰痛 60.3
9. 懸垂ゼロ 21	9. 背中ぐにゃ 68.4	9. ちょっとしたことで骨折 63.6	9. 歯ならびが悪い 63.5	9. 背中ぐにゃ 55.6
9. シュラッテル病 21	10. 症状が説明できない 66.7	10. 歯ならびが悪い 59.5	10. 平熱36度未満 62.0	10. なんとなく保健室にくる 55.0
				10. 症状が説明できない 55.0

表 1　つづき

〈高等学校〉　(%)

1979 年		1995 年		1990 年		2000 年		2005 年	
1. 腰痛	40	1. アレルギー	83.0	1. アレルギー	88.8	1. アレルギー	89.2	1. アレルギー	86.7
2. 背中ぐにゃ	31	2. すぐ「疲れた」という	75.9	2. 腰痛	80.4	2. すぐ「疲れた」という	82.0	2. 腰痛	71.4
2. 朝礼でバタン	31	3. 腹痛・頭痛を訴える	75.0	3. 腹痛・頭痛を訴える	76.6	3. 腹痛・頭痛を訴える	80.2	3. 平熱 36 度未満	69.5
4. 肩こり	28	4. 視力が低い	67.0	4. すぐ「疲れた」という	74.8	4. 腰痛	79.0	3. 腹痛・頭痛を訴える	69.5
4. 貧血	28	5. 腰痛	66.5	5. 首，肩のこり	73.8	5. 不登校	75.4	5. すぐ「疲れた」という	67.6
6. 朝からあくび	27	6. 不登校	64.2	6. 平熱 36 度未満	71.0	6. 首，肩のこり	74.3	6. 症状が説明できない	63.8
7. 神経性胃かいよう	25	7. 症状が説明できない	62.3	6. 視力が低い	71.0	7. 平熱 36 度未満	71.3	7. 首，肩のこり	61.9
8. なんでもない時骨折	21	8. 背中ぐにゃ	61.3	8. 不登校	68.2	8. 皮膚がカサカサ	67.1	8. 不登校	60.0
8. アレルギー	21	9. 平熱 36 度未満	60.8	9. 皮膚がカサカサ	61.7	9. なんとなく保健室にくる	65.9	9. ぜんそく	59.0
10. 脊椎異常	18	10. 首，肩のこり	59.9	10. 症状が説明できない	60.7	9. 症状が説明できない	65.9	10. 背中ぐにゃ	58.1
10. 授業中目がトロン	18							10. 手足が冷たい	58.1

小学・高校で共通する項目は，今回の調査では見られなかった。

3.3　今回の調査で新たに加えた項目の“最近増えている”実感の回答状況は，以下のとおりであった。

（Q の次の番号は，乳幼児用調査項目番号/児童・生徒用調査項目番号を表す）

Q15/18「つま先立ち歩き」

保育所	31 位	18.4%
幼稚園	36 位	10.1%
小学校	57 位	8.5%
中学校	63 位	3.3%
高　校	63 位	2.9%

Q24/27「手足が冷たい」

保育所	19 位	36.8%
幼稚園	25 位	23.4%
小学校	31 位	33.3%
中学校	17 位	42.4%
高　校	10 位	58.1%

Q30/33「口で呼吸している」

保育所	20 位	35.8%
幼稚園	22 位	26.1%
小学校	20 位	47.1%
中学校	28 位	30.5%
高　校	29 位	30.5%

Q33/36「発音の仕方が気になる」

保育所	15 位	41.3%
幼稚園	7 位	56.4%
小学校	24 位	40.2%
中学校	48 位	14.6%
高　校	54 位	10.5%

Q37/40「体が硬い」

保育所	11 位	45.8%
幼稚園	10 位	46.8%
小学校	8 位	60.1%
中学校	13 位	49.7%
高　校	14 位	53.3%

Q50/53「自閉的な傾向がある」

保育所	14 位	41.8%
幼稚園	12 位	44.7%
小学校	17 位	51.6%
中学校	21 位	35.1%
高　校	21 位	37.1%

表2　子どもの「からだのおかしさ」の事象と予想される問題（実体），ならびに問題が予想されるからだの器官・機能

乳幼児用No.	児童・生徒用No.	事　象	予想される問題（実体）	問題が予想されるからだの器官・機能														
				大脳新皮質				大脳辺縁系	脳幹			脊髄	感覚系	骨格・筋系				
				覚醒	感覚・記憶・認識	感情・意思（前頭葉）	運動プログラム・命令		自律神経系	ホルモン系	免疫系	反射神経	視機能	骨格	咬合力	体幹筋力	脚筋力	柔軟性
3	4	保育・授業中，じっとしていない	集中力の欠如	○		○												
—	6	なんとなく保健室にくる	不安傾向			○												
6	9	すぐ「疲れた」という	意欲・関心の低下，疲労・体調不良			○			○									
7	10	転んで手が出ない	防御反射の鈍化・消去				○					○						
9	12	ボールが目にあたる	立体視機能の低下										○					
10	13	背中ぐにゃ	姿勢不良			○			○							○		
16	19	つまずいてよく転ぶ	防御反射の鈍化・低下		○		○					○						
22	25	平熱36度未満	体温調節機能の発達不全						○	○	○							
24	27	手足が冷たい	体温調節機能の発達不全						○	○	○							
28	31	腹痛，頭痛を訴える	疲労・体調不良						○	○								
29	32	そしゃく力が弱い	口腔の発育・発達不全											○	○			
31	34	症状を説明できない	からだに関する言語的知性の不足		○													
32	35	首，肩のこり	疲労・体調不良															
33	36	発音が気になる	口腔の発育・発達不全						○					○	○			
37	40	体が硬い	柔軟性の低下															○
42	45	アレルギー	アレルギー								○							
43	46	皮膚がカサカサ	アレルギー								○							
44	47	ぜんそく	アレルギー								○							
—	55	視力が低い	視力の発達不全										○					
—	63	腰　痛	姿勢不良，疲労・体調不良							○						○		
—	64	不登校	意欲・関心の低下，疲労・体調不良			○			○									
51	66	床にすぐ寝転がる	意欲・関心の低下，疲労・体調不良			○			○									

Q51/66「床にすぐねっ転がる」

保育所	6位	64.2%
幼稚園	5位	60.1%
小学校	19位	47.7%
中学校	24位	33.1%
高　校	30位	29.5%

今回新たに加えた項目で“最近増えている”実感ワースト10位以内に入ったものは，「手足が冷たい」高校10位，「発音の仕方が気になる」幼稚園7位，「体が硬い」幼稚園10位と小学校8位，「床にすぐねっ転がる」保育所6位と幼稚園5位というものであった。

4. 考　　察

4.1 われわれは，そのときどきの子どものからだがどのような方向に変化し，どのような“おかしさ”が進行しているのか，という子ども理解の深化のために，1978年からほぼ5年ごとに「子どものからだの調査」（以下，「実感調査」と略す）を実施し続けている[1~4]。そして，得られた子どもの「からだのおかしさ」の事象から，予想される問題（実体），さらにはその問題（実体）と関連するからだの器官・機能について推測している。本調査では，表2に示すような推測を導き出すことができた。もちろん，この表に示す推論は，子どものからだに関する各地での議論が旺盛に展開されることを期待して，現時点におけるわれわれの帰無仮説を大胆に示したにすぎない。だが，例えば，以下のような議論が可能である，とわれわれは考えている。

1) この表における事象の欄には，各学校段階で“最近増えている”と実感されていた「からだのおかしさ」のワースト・10が列挙されている。これらの事象を前回の2000年調査の結果と比較してみると，「朝からあくび」「すぐ疲れて歩けない」「歯ならびが悪い」の3項目が姿を消して，替わりに「ボールが目にあたる」「手足が冷たい」「発音が気になる」「体が硬い」「床にすぐ寝転がる」の5項目が新たに加わったことがわかる。新たに加わった事象のうち，「ボールが目にあたる」を除く4項目は，いずれも今回の調査で新設された質問項目である。

このことからも，子どものからだのマイナス方向への変化を食い止めることに成功していないばかりか，いっそうさまざまな形で「からだのおかしさ」が表出され続けていることを予想させる。

2) そうはいっても，「からだのおかしさ」が予想されるからだの器官・機能については，大脳新皮質，脳幹，脊髄といった「神経系」，視機能を司る「感覚系」，骨格，咬合力，体幹筋力，柔軟性といった「骨格・筋系」という部分に限定されてきており，2000年調査とも変化がないことからすると，問題の実体はかなり追いつめられてきたとも考えられる。

4.2 ところで，前回の2000年調査ですべての学校段階のワースト1，2位にランクされた「アレルギー」と「すぐ“疲れた”という」の2項目は，今回の調査でも，やはりすべての学校段階においてワースト5位以内にランクされる共通項目になっている。

このうち，「アレルギー」については，日本学校保健会による『平成16年度児童生徒の健康状態サーベイランス事業報告書』[8]において，“医師からアレルギーと言われている”または“以前（1年以上前）にアレルギーと言われたことがある”という子どもの割合が，全体で男子50.8%，女子47.6%と，およそ半数の子どもたちが何らかのアレルギーを有し，もはや見過ごすことができない数に達していることが明らかにされている。

では，前回の調査以降，その実体の究明が待たれていた[6]「すぐ“疲れた”という」子どもが“最近増えている”という「からだのおかしさ」の実感の実体は，一体どのようなところにあるのであろうか。

4.3 われわれは，子どものからだの変化に関するこのような実感に導かれて，実際に保育・教育現場に出かけて行って種々の事実調査にも着手している。

1) 例えば，表2において，問題が予想されるからだの器官・機能に最も多くのチェックがついている「自律神経系」については，体温測定による体温調節機能[9~12]や体位血圧反射法による血圧調節機能[12~15]の調査を実施してきた。

その結果，最近のわが国における子どもたちの体温が中国・北京市の子どもたちの体温よりも有意に低く，日中であってもからだの活動水準が十分に高まっていないことが明らかにされ，心配されている[12]。また，1956年当時[16]は加齢に伴う機能の順調な発達が観察されていた体位血圧反射法による血圧

調節機能の調査結果を概観してみても，1984年調査[13]では，中学生，高校生になっても，その割合が減少していかなくなってしまい，さらに，1990年代[14,15]，2000年代[12]の調査では，いっそう不良群の割合が増加して，8割前後の子どもたちがそのように判定されてしまう事態を招いていることが心配されている。

いうまでもなく，このような自律神経系の働きの変調は，全身の倦怠感，めまい，頭痛，腹痛などの諸症状を起こしやすくする。したがって，「すぐ“疲れ”という」子どもたちが“最近増えている”と実感されていることの実体の一つは，自律神経系の発達不全（発達の遅れとゆがみ）とその不調にある，と予想されている[7]。

また同時に，体幹を支える筋緊張や体温調節の不十分さ，あるいは自律神経失調傾向，疲労の蓄積が原因と予想される「背中ぐにゃ」「平熱が36度未満」「手足が冷たい」「腹痛，頭痛を訴える」「不登校」「首，肩のこり」の諸事象が“最近増えている”と実感されている背景にも，このような自律神経機能の発達不全と不調とが関連していることを予想させる。

2) 他方，生活に満足感や充実感がある時には，「疲れ」を感じない[17]ともいわれている。一般に，満足感や充実感といった感情，あるいはやる気や根性といった意志は，大脳新皮質・前頭葉が司っている。そのため，大脳新皮質・前頭葉の発達に何らかの変化があって「すぐ“疲れた”という」子どもたちが増えているのではないかとも予想できる。

この点について，われわれは先行言語指示法による把握運動条件反射法を用いた大脳活動の型に関する事実調査（以下，「go/no-go実験」と略す）を機会あるごとに精力的に行っている[18~22]。

その結果では，大脳活動の型に関する最近の子どもたちの発達傾向が，かつての子どもたちのそれとは明らかに異なっており，憂慮すべき様相にあることが確認されている。加えて，この機能の発達傾向の変化が，1990年代以降，学校教育現場から報告されている「学級崩壊」や「キレる」の解釈にも役立つことを訴え続けてきた[22,23]。

このように，現在の子どもたちの大脳新皮質・前頭葉の発達傾向は，かつての子どもたちにおけるそれとは明らかに異なり，憂慮すべき変化を示している。したがって，「すぐ“疲れた”という」子どもたちが“最近増えている”と実感されていることの実体の一つは，大脳新皮質・前頭葉の発達不全（発達の遅れとゆがみ）にある，と予想されている[7]。

と同時に，感情，やる気，意志，集中力といった高次神経活動や姿勢感覚の問題がその原因とも予想できる「保育・授業中，じっとしていない」「何となく保健室にくる」「背中ぐにゃ」「不登校」「床にすぐ寝転がる」といった諸事象が“最近増えている”と実感されていることの背景にも，やはりこの大脳新皮質・前頭葉の発達不全が関連していることを予想させる。

4.4 いずれにしても，時に「子どもを見る目がおかしいからそのようにみえるのだ」[5]と批判の対象にもなってしまう実感調査であるが，その実感に導かれて行われてきた子どものからだに関する種々の事実調査の結果は，日々子どもと接している保育・教育現場の実感が，予想以上に“アンテナが高く，また感度も優れている”ことを証明してくれている[5~7]，とわれわれは考えている。

4.5 以上のように，実感調査の結果を基にして行われてきた子どものからだに関する種々の事実調査は，「からだのおかしさ」の実体を少しずつにではあるものの，着実にその本丸にたどり着きつつあるといえよう。したがって今後は，「おかしさ」を克服していくための実践的な仮説を立てて，それを実践的に検証する実践研究が期待されているといえる。実際，「からだのおかしさ」の克服を目指して行われている「じゃれつき遊び」[22]や体育専科教員[22]の実践では，動的，静的な“興奮”の惹起が子どもの大脳新皮質・前頭葉の発達に効果的である，という一定の成果をわれわれに提供してくれているし，やる気や意志が希薄な多くの子どもたちが自らの意志で訪れる保健室での実践にも，今後の実践にとって大切なヒントが多く存在していると考える。

そうはいっても，問題の所在を明確にすることがそれを解決するための第一段階の作業であることを考えると，「おかしさ」の事実を明らかにして，それを正確に把握するというこれまでの作業は，今後も進めていかなければならないといえる。

周知のとおり，わが国においても1994年5月22日に「子どもの権利条約」が発効され，それに伴って過去2回の政府報告書が国連・子どもの権

利委員会に届けられた。そして，それらの報告書を審査した同委員会から日本政府に示された二つの最終所見[24, 25]では，いずれも子どもに関するデータの不備が懸念され，その改善が勧告され続けている。ところが，このような勧告に対して，真摯に対応しているとはいい難い状況も見受けられる。

例えば，学校健康診断における視力検査については，「矯正視力の者の裸眼視力検査を省略できる」というように，学校保健法施行規則の一部が「改正」されてしまってから10年以上が経過している。仮に，現在の子どもたちの視機能には何の問題もない，ということであれば，このような「改正」にもある程度は納得できる。だが実際には，本調査においても，「視力が低い」子どもが“最近ふえている”と実感され続けているように，「改正」以前の1994年度までにおける裸眼視力1.0未満の者の年次推移を観察してみても，年々増加の一途をたどり[26]，その機能の発達と低下が心配されていた検査項目であった。

せめて，矯正視力の者の割合を把握するなど，これまでのデータと比べ合うことができるような方法でのデータ蒐集が臨まれる[27]，とわれわれが考えるゆえんである。

4.6 自由記述について

この「実感調査」アンケートの最後に，「調査項目」について，また「調査項目」以外について実感している子どもの様子などを記述して貰う「自由記述欄」を設けている。ここに「記述」されていることを「KJ法」（川喜田二郎による）によって分析したこともあったが[28]，今回は主観的にまとめることにした。

1) 実感されている「からだのおかしさ」の「回答率」は“高値・安定（横ばい）”であり，「子どものからだ」の変化は依然“同じ方向”に進行していることを予想させる。

この「自由記述欄」を通読して一番印象に残るのは，この「調査」では“最近ふえている”のはどの事象かなどを質問しているが，“ずっと前から増えていて，今も依然として多い”という事象については，“変わらない”と答えてしまいそうになる，という「記述」があったことである。確かにこのような場合，「質問」に回答するのが難しいことがわかる。この「実感調査」を始めたときにも，このことが議論されて，“最近増えている”への「回答率」と“変わらない”という「回答率」とを合わせて「そのような“事象”が存在する」と実感されている者がどれだけいるのか，という値を求めて考察をしたことがある。

2) この「実感調査」の機会に，保育・教育現場での「子ども」についてのいろいろな“変化”が分かる。

この「自由記述欄」に10年・15年間の変化を克明に記述しているものがある。たとえば，広島県からは「15年前にも随分変な子どもも数多くおりましたから，できることなら今後は定時・定点観測されて続けられると，もう少し正確な回答が寄せられるのではないかと思います。主として“情緒面”で妙な子どもが増えているのが気がかりです」と“定点観測”の必要性を提案してくださって，「からだ」というよりは“情緒面”の変化がいっそう進行していることを教えてくれている。

3) この「実感調査」で，いち早く「子ども」の“変化”の事象を知ることができる。

「回答率」の多さや，それらの順位の変動から，新しい“変化”が進行していることをいち早く知ることができるが，この「自由記述」によってそれらを確信することができる。たとえば，岡山県からは「朝からあくびの子」「遊びに入りにくい子」「部屋の中での遊びを好んでする子」「手先の器用さに欠ける子」「集中力が弱くなり，落ち着きがない子」「忍耐力がなく，“疲れた”・“だるい”という子」が依然ふえている。これらは，「からだ」というよりは，「脳」に発生している”変化”ととらえることができる。

4) この「実感調査」に回答する際に，職場で集団的に討議して，各年齢別に“変化”の特徴を丁寧に記述しているところがあり，「問題」が発生する時点が予想できる。

この「実感調査」は，最近の子どもの変化について「保育・教育現場」における「からだのおかしさ」の“実感”を尋ねているのである。ところがこの“回答”に際して，保育園などで“年齢ごと”に子どもの「変化」が異なるために，職場で集団的に討議して，丁寧に“年齢ごと”に記述してくれているところがある。たとえば，青森県では，

“ゼロ・1歳児”「前を見ないで歩いたり，走っ

たりして，物にぶつかったり，友達にぶつかったりする」

“2歳児”「朝からぼんやりして，次の動作ができずにいる。おとな顔負けの会話を楽しんでいる」

“3歳児”「米からパンになっていると思っている子がふえている」

“4歳児”「鼻血が出易く，鼻の悪い子がふえてきている。肌がカサカサしていたり，アトピー的な子がふえてきている」

“5歳児”「汗をかく子は異常と思う位汗を多くかくし，汗をかかないように見える子もけっこういるように思える。(動き自体も少ないからか？)ラーメン等すぐに飲み込める食物でも，50回ほどもモグモグかみ込んだ後でないと飲み込めない子も見られる。野菜を食べない子がふえてきている。おしぼりやおしぼりケース，服などにカビが発生していても，使用している。“切れやすい子”が増えている。“夜型の子”がふえてきている。朝食をきちんと食べていない子が多い。ビデオやテレビを見ているときだけ静かにしている。その他はあまり話を聞かず，勝手に席を立って歩いたりしている子が多い」

などと克明に記述していて，今後の研究の手がかりが掴めてありがたい。

5)「ロコモーション」の新しい“変化”について，今後慎重にフォローする必要がある。

4)の中の「歩いていて，走っていて，物や友達にぶつかる」という事象についての記述は，このほかにもいくつかみられ，子どもの「ロコモーション」の変化として今後慎重にフォローする必要があると考える。それは，「パーキンソン病」の“症状”と似ているという指摘があり，そのような「事象」を起こす子については，生育過程のどこかで“転倒”して「頭」を打撲した経験がないかどうかなどを確かめる必要がある。“地面”や“床面”が昔より硬くなっているために，“転倒”により子どもの「脳」が何か“障害”を受けていないかどうかなどを丁寧に聞き取りをする必要がある。またそういう場合には，“他の事象”を併発することがあるので，“平面的な”実感調査から“総合的な”生育過程の調査が必要になってくる。

これまで実感されている「子どものからだの“おかしさ”」の“実体”としては，「からだの発達不全」と「からだの不調」，さらにこれらの複合が予想されてきた。ところが，もう一つ“生活環境の変化”などによる「からだへの被害」を考えなくてはならなくなってきているのかもしれない。

5. 結　　論

5.1 子どものからだのマイナス方向への変化を，依然として食い止められず，いっそうさまざまな形で「からだのおかしさ」が表出され続けていることが予想された。とはいえ，その問題の実体がかなり限定されてきたことも予想された。

5.2 前回の2000年調査以降，その実体の解明が求められていた「すぐ“疲れた”という」事象の背景には，自律神経系の発達不全と不調ならびに大脳新皮質・前頭葉の発達不全が予想された。また，実感されている「からだのおかしさ」の回答率は，“高値・安定（横ばい)”であり，「子どものからだ」の変化は，依然“同じ方向”に進行していることを予想させる。

5.3 実感に導かれて行われてきた子どものからだに関する種々の事実調査は，保育・教育現場の実感が，予想以上に“アンテナが高く，また感度も優れている”ことを証明する結果を示していた。

5.4 今後は，「からだのおかしさ」を克服していくための実践的な仮説を立てて，それを実践的に検証する実践研究が期待された。また，そのためにも「からだのおかしさ」の事実を明らかにして，それを正確に把握することの必要性が求められた。

6. 提　　言

子どもの「からだのおかしさ」の特徴は，「からだの発達不全」と「からだの不調」，さらにこれらの複合が予想されるとして，「子どものからだの調査'90」以来述べてきた。そして，提言してきた。これまでの提言をまとめると以下のものであり，国際的課題等を今回追加した。(★印：今回の追加項目)

6.1 からだの課題

- 防衛体力を向上させよう
- 感覚諸器官とそれらの共通感覚を発達させよう

6.2 家庭・地域・学校での生活，教育の課題

- 「体力つくり」以前の“からだづくり”に取り組もう

- からだと生活の目標　“からだと生活の主人公”“からだの科学者”
- 到達目標　20年前の疲れを知らない元気な子どもにしよう
- 一日1回，熱中して汗をかくくらいの外遊びをさせよう
- 早寝ができるような昼間の生活を作り出そう
- テレビ・テレビゲーム漬けの生活から離し，多様な熱中体験をさせよう

6.3 行政の課題

- 過去3回の提言で一貫した行政への要請は，「国立子ども研究所」を設立しよう
- 教育改革論議に，「からだ」の変化をくい止めるための教育政策を入れよう
- 全学校段階に養護教諭を配置し，さらに複数配置をしよう
- 特に，全小学校に体育の専科教員と学校栄養士の配置をしよう
- 裸眼視力の正確な検査を復活させ，視力低下の原因をつき止めよう
- 健康診断項目にアレルギー検査を（無料で）加えよう

★国連・子どもの権利委員会からの勧告に真摯に対応しよう

6.4 国際的課題

★WHOが提唱する Active Living のモデル国として，子どものからだと心についての問題を解決し，この面での国際貢献をしよう

★「世界子ども研究所」を設立し，『世界子どものからだと心白書』を作ろう

これらの提言課題は，日本の子どもの「からだのおかしさ」についての調査結果を考察した結果である。日本でのからだの“おかしさ”究明に取り組んできた“先進的”な経験の教訓を，国際的共有財産としていただけたら幸いである。

謝　辞　本研究の趣旨にご理解をいただき，調査にご協力をいただいた保育所，幼稚園，小学校，中学校，高等学校の先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。また，全くわれわれの都合により調査結果全体の報告が遅れたことをお詫び申し上げます。

文　献

1) 日本体育大学体育研究所：日本の子ども・青少年のからだの調査―「子どものからだ」アンケート報告書―．日本体育大学体育研究所所報，(**5**), 185–221, 1981.
2) 正木健雄，阿部茂明：「子どものからだの調査'90」の結果報告．日本体育大学体育研究所雑誌，(**18–21**), 45–59, 1996.
3) 阿部茂明，野田　耕，正木健雄：「子どものからだの調査'95」の結果報告．日本体育大学紀要，**25**(2), 143–160, 1996.
4) 阿部茂明，野井真吾，野田　耕，平井貴子，正木健雄：「子どものからだの調査2000」の結果報告．日本体育大学紀要，**31**(2), 121–138, 2002.
5) 正木健雄：子どものからだの「発達不全」と「不調」：実感されてきた“からだのおかしさ”の実体．体育学研究，**45**(2), 267–273, 2000.
6) 阿部茂明：学校教育における“からだづくり”の位置づけ．日本体育大学紀要，**30**(1), 13–24, 2000.
7) 野井真吾：子どものからだの現状からみた発達困難の今日的特徴と教育保健の課題．日本教育保健学会年報，(**13**), 70–77, 2006.
8) 日本学校保健会：平成16年度児童生徒の健康状態サーベイランス事業報告書．pp. 109–123, 2006.
9) Sawada, K. and Masaki, T.: The body temperature of healthy youth in Japan: Research of the change in a day through all seasons. XVth World Conference of the International Union for Health Promotion and Education, Makuhari, 1995 Abstracts, 484, 1995.
10) 野井真吾，小澤治夫，阿部茂明，正木健雄：健康青少年における暑熱環境下運動とその生体応答とに関する検討．学校保健研究，**42**(1), 59–70, 2000.
11) Noi, S., Ozawa, H. and Masaki, T.: Characteristics of low body temperature in secondary school bays. International Journal of Sport and Health Science, **1**(1), 182–187, 2003.
12) 野井真吾：最近の子どもにおける防衛体力の特徴―血圧調節機能ならびに体温調節機能を指標として―．東京理科大学紀要（教養篇），(**36**), 221–238, 2004.
13) 正木健雄：青少年における血圧調節機能の実態及び対策に関する実験的研究．昭和60年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書，

1-9, 1986.
14) 藤岩秀樹，正木健雄：中学生の血圧調節機能に関する研究—体位血圧反射法によって—．発育発達研究，(**25**), 13-19, 1997.
15) 塚田　力，野田　耕，野井真吾，阿部茂明，正木健雄：へき地の子どもの防衛体力と生活—その1・血圧調節機能の調査結果から—．学校保健研究，**39**(Suppl.), 308-309, 1997.
16) 猪飼道夫，古畑　宏，山川純子：体位血圧反射の年令に伴う変化．民族衛生，**22**(5), 141-147, 1956.
17) 西條修光，渡辺光洋：中学生の疲労感と生活の関連について．疲労と休養の科学，**13**(1), 119-128, 1998.
18) 正木健雄，森山剛一：人間の高次神経活動の型に関する研究．東京理科大学紀要（教養篇），(**4**), 69-81, 1971.
19) 西條修光，森山剛一，熨斗謙一，熊野晃三，村本和世，阿部茂明，正木健雄：子どもの大脳活動の変化に関する研究—高次神経活動の型から—．日本体育大学紀要，(**10**), 61-68, 1981.
20) 寺沢宏治，西條修光，柳沢秋孝，篠原菊紀，根本賢一，正木健雄：GO/NO-GO 実験による子どもの大脳発達パターンの調査—日本の '69, '79, '98 と中国の子どもの '84 の大脳活動の型から—．日本生理人類学会誌，**5**(2), 47-54, 2000.
21) Terasawa, K., Saijo, O., Yanagisawa, A., Shinohara, K., Nemoto, K., Masaki, T.: GO/NO-GO experiment to study cerebral development patterns in Japanese and Chinese children—The comparison survey in Japan and China—. Nagano Journal of Physical Education and Sports, (**11**), 1-7, 2000.
22) 野井真吾：子どもの輝く目を求めた実験的とりくみ—"教育生理学" 的な分析から—．教育，**53**(10), 29-36, 2003.
23) 正木健雄：今日の子どもの「荒れ」と身体の問題—身体の変化の総点検から—．教育，**47**(13), 42-49, 1997.
24) United Nations Committee on the Rights of the Child: Considerations of reports submitted by states parties under article 44 of the convention/Concluding observations of the Committee on the Rights of the Child: Japan. (CRC/C/15/Add.90), UN, Geneva, 1998.
25) United Nations Committee on the Rights of the Child: Considerations of reports submitted by states parties under article 44 of the convention/Concluding observations of the Committee on the Rights of the Child: Japan. (CRC/C/15/Add.90), UN, Geneva, 2004.
26) 子どものからだと心・連絡会議編：子どものからだと心白書 2005．ブックハウス・エイチディ，pp. 62-63, 2005.
27) 上野純子，小林博隆，野井真吾：学校健康診断における視力値の統計的処理に関する提案．日本発育発達学会第4回大会 in Kushiro, 2006, p. 78, 2006.
28) 野田　耕，野井真吾，阿部茂明，平井貴子，正木健雄：「子どものからだの調査 2000」の結果報告—(2) 自由記述回答項目の結果について—．学校保健研究，**42**(Suppl.), 234-235, 2000.

《結果1》

子どものからだの調査 2005
保育所（n＝201）

以下の項目について、“実感”で該当する欄の番号に○をつけて下さい。 （数字は%）

	からだの活動性	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
1	朝からあくびをする子	45.3	39.8	2.5	10.4	0.0	1.0
2	保育中、目がトロンとしている子	29.4	41.3	4.0	21.9	0.5	2.0
3	保育中、じっとしていない子	68.2	24.4	2.5	2.0	0.0	2.0
4	自由時間の時など、ボーッとして何もしていない子	21.4	45.8	5.0	24.9	1.5	0.5
5	あまり汗をかかない子	20.4	49.3	4.5	17.4	7.0	1.0
6	すぐに「疲れた」という子	68.7	22.4	2.0	4.5	1.0	0.5

	からだの防御性	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
7	転んで手が出ない子	48.8	33.8	3.0	12.9	0.0	0.5
8	まばたきがにぶい子	8.0	36.8	0.5	35.8	15.9	2.0
9	ボールが目にあたる子	12.9	38.8	1.0	34.8	10.0	1.5

	直立姿勢や動作	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
10	椅子に座っている時、背もたれによりかかったり、ほおづえをついたりして、ぐにゃぐにゃになる子	72.1	17.4	2.0	6.5	0.0	1.0
11	「気をつけ」の姿勢の時、腹が前にでっぱっている子	15.9	42.3	1.5	27.4	9.5	2.5
12	まっすぐな姿勢をした時、肩甲骨の左右の高さやでっぱり具合が対照的でない子	12.9	27.4	1.0	30.8	24.9	2.5
13	肩甲骨の左右の大きさに違いがある子	3.0	21.4	0.0	37.3	34.3	3.5
14	脊柱異常とまではいかなくても、背筋がおかしい子	12.4	17.9	0.0	49.8	15.4	4.0
15	つま先立ち歩きの子	18.4	29.4	3.0	43.8	1.5	3.5
16	つまずいてよく転ぶ子	47.3	31.3	3.0	14.9	0.0	3.0
17	内またのためによく転ぶ子	14.9	36.8	1.5	42.3	3.5	0.5
18	すぐ疲れて歩けなくなる子	39.8	31.3	2.0	23.9	1.5	1.0
19	まっすぐに走れない子	15.4	35.8	1.5	38.8	5.0	3.0
20	棒のぼりで足うらを使えない子	27.4	27.4	1.5	10.4	28.9	4.0
21	力が入りすぎて、ちょうどよい力で動作ができない子	22.4	39.3	1.0	22.4	11.4	3.0

	病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
22	平熱が36度未満の子	29.4	38.8	2.0	20.9	5.5	2.5
23	平熱が37度以上の子	9.5	45.3	5.0	30.8	7.5	1.5
24	手足が冷たい子	36.8	37.8	2.0	13.9	6.5	2.0
25	奇声を発する子	43.8	27.9	4.0	21.4	0.5	1.5
26	指吸いの子	40.3	45.8	6.5	6.0	0.0	0.5
27	爪かみの子	27.4	45.8	10.4	13.9	1.0	0.5
28	よく腹痛や頭痛を訴えてくる子	38.8	36.8	2.5	17.9	1.5	1.5
29	そしゃく力が弱く、食物を飲み込んでしまう子	58.2	29.9	3.5	6.0	0.5	1.0
30	口で呼吸している子	35.8	38.3	3.0	12.9	6.0	3.0

《結果1のつづき》

（数字は%）

病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
31 自分で症状を説明できない子	29.4	47.3	3.5	11.4	5.5	2.0
32 首すじがはったり、肩がこっている子	6.0	13.4	1.0	37.8	37.3	3.5
33 発音の仕方が気になる子	41.3	40.8	3.0	9.0	2.5	2.5
34 歯ならびの悪い子	29.9	43.3	3.5	17.4	4.5	0.5
35 歯ぐきの色がおかしい子	6.0	34.8	1.5	43.3	11.9	1.5
36 聴力の弱い子	13.4	36.3	2.0	33.3	13.4	0.5
37 体が硬い子	45.8	33.3	2.5	8.5	6.5	2.5
38 異常と思われる肥満の子	14.4	31.8	3.5	47.8	1.0	0.5
39 異常と思われる痩身（やせ）の子	6.0	31.8	3.5	53.2	2.5	2.0
40 鼻炎でプールに入れない子	5.0	16.9	3.5	67.2	3.5	3.0
41 鼻血が出やすい子	33.3	43.3	3.5	17.4	0.5	1.0
42 アレルギー性疾患の子	74.6	21.4	1.5	1.0	0.5	0.5
43 皮膚がカサカサの子	77.6	17.4	2.5	1.5	0.0	0.5
44 ぜんそくの子	57.2	28.9	1.0	10.4	0.0	2.0
45 胸郭異常の子	2.0	20.9	2.0	60.7	11.4	2.0
46 ちょっとしたことで骨折する子	12.4	21.9	3.5	56.2	4.5	1.0
47 骨折しても痛みを訴えない子	1.5	11.4	1.0	72.6	11.9	0.0
48 夜寝ている時、膝などの関節が痛くて眠れない子	5.5	15.4	0.5	54.2	20.9	2.0
49 オスグード・シュラッテル病（膝の骨の異常発達で痛む）の子	1.5	8.5	0.0	71.1	16.4	1.0
50 自閉的な傾向がある子	41.8	25.9	2.0	25.9	2.5	1.0
51 床にすぐねっ転がる子	64.2	19.9	2.5	11.4	0.0	1.0

《結果2》

子どものからだの調査 2005
幼稚園(n=188)

以下の項目について、“実感”で該当する欄の番号に○をつけて下さい。 (数字は%)

	からだの活動性	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
1	朝からあくびをする子	39.4	42.6	3.7	12.2	1.6	0.0
2	保育中、目がトロンとしている子	20.2	45.7	3.7	25.0	3.2	1.1
3	保育中、じっとしていない子	55.3	27.7	4.3	10.6	1.6	0.5
4	自由時間の時など、ボーッとして何もしていない子	16.5	45.2	5.3	29.8	2.1	0.5
5	あまり汗をかかない子	13.8	49.5	4.8	23.9	6.4	1.6
6	すぐに「疲れた」という子	72.9	16.0	2.1	6.9	0.5	1.6

	からだの防御性	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
7	転んで手が出ない子	46.3	35.1	4.3	11.7	2.7	0.0
8	まばたきがにぶい子	5.9	32.4	2.1	29.8	28.7	1.1
9	ボールが目にあたる子	8.0	43.1	3.2	36.7	8.0	0.5

	直立姿勢や動作	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
10	椅子に座っている時、背もたれによりかかったり、ほおづえをついたりして、ぐにゃぐにゃになる子	64.9	19.7	3.2	8.5	3.2	0.5
11	「気をつけ」の姿勢の時、腹が前にでっぱっている子	11.7	47.9	2.1	27.1	10.1	0.5
12	まっすぐな姿勢をした時、肩甲骨の左右の高さやでっぱり具合が対照的でない子	8.5	20.7	2.1	27.1	40.4	0.5
13	肩甲骨の左右の大きさに違いがある子	1.1	14.4	0.0	35.1	48.4	0.5
14	脊柱異常とまではいかなくても、背筋がおかしい子	5.9	19.7	0.0	44.7	27.1	2.1
15	つま先立ち歩きの子	10.1	23.4	2.7	58.0	4.3	0.5
16	つまずいてよく転ぶ子	47.3	30.3	4.3	17.0	0.5	0.5
17	内またのためによく転ぶ子	11.7	29.3	3.2	41.5	12.8	1.1
18	すぐ疲れて歩けなくなる子	33.5	28.2	5.3	30.9	1.1	1.1
19	まっすぐに走れない子	12.8	38.8	2.7	36.7	6.4	2.7
20	棒のぼりで足うらを使えない子	30.9	25.0	2.1	7.4	32.4	1.6
21	力が入りすぎて、ちょうどよい力で動作ができない子	21.8	33.0	2.1	25.5	15.4	1.6

	病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
22	平熱が36度未満の子	25.0	33.5	2.7	15.4	21.3	2.1
23	平熱が37度以上の子	4.3	28.2	5.9	36.7	22.9	2.1
24	手足が冷たい子	23.4	41.0	3.2	15.4	15.4	1.6
25	奇声を発する子	39.4	26.1	3.7	29.8	1.1	0.0
26	指吸いの子	30.9	47.3	6.4	14.9	0.0	0.5
27	爪かみの子	23.9	48.9	8.5	16.0	0.5	1.1
28	よく腹痛や頭痛を訴えてくる子	44.7	29.8	3.7	19.7	1.6	0.5
29	そしゃく力が弱く、食物を飲み込んでしまう子	39.4	27.7	2.1	21.8	8.0	1.1
30	口で呼吸している子	26.1	31.9	1.6	20.7	18.1	1.1

《結果2のつづき》

（数字は%）

病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
31 自分で症状を説明できない子	21.8	47.9	4.8	21.3	1.6	2.1
32 首すじがはったり、肩がこっている子	2.1	12.2	0.0	40.4	43.1	1.1
33 発音の仕方が気になる子	56.4	28.2	5.3	6.9	2.1	1.1
34 歯ならびの悪い子	30.3	41.0	8.5	14.4	5.3	0.0
35 歯ぐきの色がおかしい子	4.3	25.0	4.8	41.0	21.8	1.6
36 聴力の弱い子	9.6	36.7	2.1	37.8	11.2	1.1
37 体が硬い子	46.8	29.3	3.7	8.5	9.6	2.1
38 異常と思われる肥満の子	11.2	34.0	1.6	50.0	1.1	0.5
39 異常と思われる痩身（やせ）の子	3.7	29.3	1.1	61.7	2.7	0.5
40 鼻炎でプールに入れない子	8.0	21.3	1.6	60.6	7.4	0.0
41 鼻血が出やすい子	27.7	45.2	5.9	20.2	1.1	0.0
42 アレルギー性疾患の子	77.1	17.6	2.7	1.6	0.5	0.5
43 皮膚がカサカサの子	66.0	26.1	3.2	3.2	1.1	0.5
44 ぜんそくの子	59.6	30.3	4.3	3.7	2.1	0.0
45 胸郭異常の子	3.2	23.9	1.1	53.2	16.5	1.6
46 ちょっとしたことで骨折する子	16.0	31.9	1.6	43.6	4.8	1.6
47 骨折しても痛みを訴えない子	3.2	14.9	0.0	62.8	16.0	1.6
48 夜寝ている時、膝などの関節が痛くて眠れない子	5.3	15.4	0.5	31.9	44.7	1.6
49 オスグード・シュラッテル病（膝の骨の異常発達で痛む）の子	1.6	7.4	0.5	58.0	31.4	0.0
50 自閉的な傾向がある子	44.7	21.8	1.6	25.0	5.9	1.1
51 床にすぐねっ転がる子	60.1	18.6	3.2	16.0	2.1	0.0

《結果3》

子どものからだの調査 2005
小学校（n＝306）

以下の項目について、“実感”で該当する欄の番号に○をつけて下さい。 （数字は%）

	からだの活動性	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
1	朝からあくびをする子	44.1	48.0	2.0	1.6	3.3	0.7
2	授業中、目がトロンとしている子	36.3	50.3	1.0	4.2	7.5	0.3
3	授業中、居眠りをする子	19.6	44.8	1.6	19.3	14.1	0.3
4	授業中、じっとしていない子	72.5	16.7	0.7	6.2	2.6	1.0
5	保健室にねむりにくる子	24.8	40.5	2.3	29.4	2.0	0.7
6	なんとなく保健室にくる子	43.5	41.2	3.3	9.5	1.0	1.3
7	休み時間の時など、ボーッとして何もしていない子	21.6	48.4	3.3	16.7	9.2	0.3
8	あまり汗をかかない子	24.2	37.3	3.3	8.5	25.5	0.3
9	すぐに「疲れた」という子	69.9	25.2	1.3	2.6	1.0	0.0

	からだの防御性	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
10	転んで手が出ない子	52.9	37.9	0.7	4.2	2.9	1.0
11	まばたきがにぶい子	28.8	37.6	0.0	7.8	24.5	1.0
12	ボールが目にあたる子	59.8	31.0	1.0	4.2	2.6	1.0

	直立姿勢や動作	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
13	椅子に座っている時、背もたれによりかかったり、ほおづえをついたりして、ぐにゃぐにゃになる子	74.5	19.6	0.3	2.3	2.9	0.3
14	「気をつけ」の姿勢の時、腹が前にでっぱっている子	36.6	39.2	1.3	10.1	11.4	1.0
15	まっすぐな姿勢をした時、肩甲骨の左右の高さやでっぱり具合が対照的でない子	17.3	46.7	1.3	12.4	21.2	0.7
16	肩甲骨の左右の大きさに違いがある子	6.9	37.6	1.0	22.9	30.4	1.0
17	脊柱異常とまではいかなくても、背筋がおかしい子	23.5	41.5	0.3	21.2	12.1	1.0
18	つま先立ち歩きの子	8.5	31.0	1.3	34.3	22.2	2.0
19	つまずいてよく転ぶ子	44.8	37.6	0.3	12.1	4.2	0.7
20	内またのためによく転ぶ子	10.1	33.0	0.7	32.0	22.2	1.0
21	すぐ疲れて歩けなくなる子	33.7	36.6	1.0	20.6	6.5	1.3
22	まっすぐに走れない子	15.0	38.6	1.3	22.9	20.6	1.0
23	棒のぼりで足うらを使えない子	27.1	21.9	0.7	3.6	44.4	1.3
24	力が入りすぎて、ちょうどよい力で動作ができない子	25.5	28.1	0.3	10.8	33.7	1.0

	病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
25	平熱が36度未満の子	60.1	29.4	0.3	2.9	6.5	0.3
26	平熱が37度以上の子	11.1	38.9	11.1	24.2	12.7	1.0
27	手足が冷たい子	33.3	38.2	0.3	3.6	22.9	0.7
28	奇声を発する子	54.6	26.8	1.0	15.7	1.6	0.3
29	指吸いの子	12.7	45.4	7.2	23.5	10.5	0.0
30	爪かみの子	25.8	55.9	6.5	4.2	6.9	0.0
31	よく腹痛や頭痛を訴えてくる子	56.5	35.3	1.6	5.2	0.7	0.0

《結果3のつづき》

（数字は%）

病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
32 そしゃく力が弱く、食物を飲み込んでしまう子	34.6	32.7	1.6	5.9	23.9	1.0
33 口で呼吸している子	47.1	29.7	0.3	5.9	16.3	0.3
34 自分で症状を説明できない子	63.1	30.1	1.6	3.9	0.7	0.7
35 首すじがはったり、肩がこっている子	48.4	25.8	1.0	12.4	11.8	0.3
36 発音の仕方が気になる子	40.2	38.2	2.0	9.8	8.8	1.0
37 歯ならびの悪い子	58.5	34.0	3.6	1.6	1.6	0.3
38 歯ぐきの色がおかしい子	29.4	50.0	1.6	8.5	10.1	0.3
39 聴力の弱い子	8.2	60.1	2.9	21.6	6.5	0.3
40 体が硬い子	60.1	25.5	1.0	2.6	9.5	1.3
41 異常と思われる肥満の子	35.6	41.8	3.3	17.6	1.6	0.0
42 異常と思われる痩身（やせ）の子	13.1	51.6	2.3	28.8	2.9	0.3
43 鼻炎でプールに入れない子	12.1	35.3	2.0	45.4	3.9	0.7
44 鼻血が出やすい子	39.9	50.3	1.0	6.5	2.0	0.3
45 アレルギー性疾患の子	82.4	16.7	0.0	0.7	0.3	0.0
46 皮膚がカサカサの子	65.7	28.8	1.0	2.0	2.6	0.0
47 ぜんそくの子	56.9	36.9	1.6	2.9	1.0	0.3
48 胸郭異常の子	3.6	49.0	4.2	34.0	8.2	0.3
49 ちょっとしたことで骨折する子	56.5	27.8	1.3	11.8	2.0	0.3
50 骨折しても痛みを訴えない子	24.2	25.2	1.0	38.9	9.2	1.0
51 夜寝ている時、膝などの関節が痛くて眠れない子	7.5	21.9	1.0	40.2	27.5	0.7
52 オスグード・シュラッテル病（膝の骨の異常発達で痛む）の子	20.3	35.0	2.0	31.4	10.5	0.0
53 自閉的な傾向がある子	51.6	28.8	0.3	14.1	4.9	0.3
54 朝礼の時などにうずくまったり、倒れる子	12.7	53.6	6.2	22.9	3.6	0.7
55 視力の低い子	63.1	32.0	0.3	3.9	0.3	0.0
56 左右の視力がひどくアンバランスな子	32.4	52.0	2.0	10.8	2.3	0.3
57 貧血の子	11.1	54.2	1.3	20.9	11.4	0.7
58 高血圧や動脈硬化の子	4.6	17.6	0.3	45.1	30.4	1.0
59 心臓病の子	8.5	58.5	1.6	25.2	5.6	0.3
60 糖尿病の子	2.6	22.2	0.3	65.0	8.5	0.7
61 神経性胃かいようや十二指腸かいようの子	6.9	15.0	0.0	64.1	11.8	1.3
62 脚気の子	0.3	9.8	1.6	74.8	12.1	0.0
63 腰痛の子	21.9	24.2	0.0	40.2	12.1	1.0
64 不登校（登校拒否も含む）の子	31.7	29.1	4.6	32.4	1.0	1.0
65 保健室登校の子	18.0	24.8	2.3	51.0	1.6	1.6
66 床にすぐねっ転がる子	47.7	29.1	0.0	17.6	4.9	0.7

《結果4》

子どものからだの調査 2005
中学校(n=151)

以下の項目について、“実感”で該当する欄の番号に○をつけて下さい。 (数字は%)

	からだの活動性	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
1	朝からあくびをする子	32.5	50.3	2.0	1.3	11.9	1.3
2	授業中、目がトロンとしている子	25.2	51.0	0.7	4.0	17.2	1.3
3	授業中、居眠りをする子	37.7	43.7	2.0	3.3	11.9	1.3
4	授業中、じっとしていない子	45.7	29.1	4.0	9.3	11.3	0.7
5	保健室にねむりにくる子	32.5	46.4	5.3	11.3	2.6	1.3
6	なんとなく保健室にくる子	55.0	36.4	4.6	2.6	0.0	0.7
7	休み時間の時など、ボーッとして何もしていない子	21.2	45.7	3.3	6.6	18.5	3.3
8	あまり汗をかかない子	25.2	41.7	0.0	0.7	28.5	2.6
9	すぐに「疲れた」という子	73.5	24.5	0.0	0.7	0.7	0.7

	からだの防御性	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
10	転んで手が出ない子	23.2	52.3	1.3	9.9	9.9	3.3
11	まばたきがにぶい子	12.6	43.7	0.7	11.3	27.8	2.0
12	ボールが目にあたる子	40.4	42.4	1.3	9.9	4.6	1.3

	直立姿勢や動作	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
13	椅子に座っている時、背もたれによりかかったり、ほおづえをついたりして、ぐにゃぐにゃになる子	55.6	33.8	0.7	2.6	5.3	0.7
14	「気をつけ」の姿勢の時、腹が前にでっぱっている子	23.2	50.3	2.0	9.3	11.9	1.3
15	まっすぐな姿勢をした時、肩甲骨の左右の高さやでっぱり具合が対照的でない子	19.2	45.0	2.6	8.6	22.5	0.7
16	肩甲骨の左右の大きさに違いがある子	7.3	39.7	2.0	15.2	31.8	1.3
17	脊柱異常とまではいかなくても、背筋がおかしい子	30.5	41.7	2.6	11.9	10.6	1.3
18	つま先立ち歩きの子	3.3	32.5	1.3	41.1	19.2	0.7
19	つまずいてよく転ぶ子	21.9	47.0	2.6	17.2	9.9	0.7
20	内またのためによく転ぶ子	4.0	39.7	2.0	25.2	25.8	0.7
21	すぐ疲れて歩けなくなる子	17.2	39.1	0.0	24.5	17.2	0.7
22	まっすぐに走れない子	4.0	37.1	1.3	30.5	24.5	0.7
23	棒のぼりで足うらを使えない子	7.3	13.2	0.0	2.6	72.8	2.0
24	力が入りすぎて、ちょうどよい力で動作ができない子	13.2	29.1	0.0	11.9	41.7	2.6

	病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
25	平熱が36度未満の子	68.9	24.5	0.0	0.0	5.3	0.7
26	平熱が37度以上の子	13.2	43.7	6.6	21.9	12.6	0.7
27	手足が冷たい子	42.4	33.8	0.7	0.0	21.9	0.7
28	奇声を発する子	25.8	35.8	4.0	27.8	6.0	0.7
29	指吸いの子	2.0	17.2	1.3	53.0	23.8	0.7
30	爪かみの子	15.2	41.7	5.3	17.9	18.5	0.7
31	よく腹痛や頭痛を訴えてくる子	60.3	33.8	2.0	2.0	0.0	1.3

《結果4のつづき》

（数字は%）

病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
32 そしゃく力が弱く、食物を飲み込んでしまう子	18.5	25.2	0.7	13.9	37.7	2.0
33 口で呼吸している子	30.5	39.7	0.7	8.6	20.5	0.0
34 自分で症状を説明できない子	55.0	37.1	1.3	5.3	0.7	0.0
35 首すじがはったり、肩がこっている子	66.2	24.5	0.0	4.6	4.6	0.0
36 発音の仕方が気になる子	14.6	52.3	0.0	17.2	14.6	0.0
37 歯ならびの悪い子	46.4	41.7	7.3	0.0	4.0	0.7
38 歯ぐきの色がおかしい子	33.1	45.7	2.6	7.9	9.9	0.0
39 聴力の弱い子	5.3	69.5	5.3	14.6	3.3	0.7
40 体が硬い子	49.7	33.8	0.0	2.0	13.2	1.3
41 異常と思われる肥満の子	27.2	42.4	6.6	21.2	2.0	0.0
42 異常と思われる痩身（やせ）の子	15.2	46.4	1.3	33.8	2.0	0.7
43 鼻炎でプールに入れない子	4.6	36.4	1.3	36.4	15.9	3.3
44 鼻血が出やすい子	28.5	61.6	2.0	4.0	3.3	0.7
45 アレルギー性疾患の子	76.8	19.9	0.0	1.3	1.3	0.7
46 皮膚がカサカサの子	47.7	45.7	1.3	1.3	4.0	0.0
47 ぜんそくの子	41.1	51.0	2.6	3.3	2.0	0.0
48 胸郭異常の子	2.6	60.9	3.3	23.8	7.9	0.7
49 ちょっとしたことで骨折する子	50.3	40.4	0.7	5.3	2.6	0.0
50 骨折しても痛みを訴えない子	15.2	35.1	1.3	33.1	12.6	1.3
51 夜寝ている時、膝などの関節が痛くて眠れない子	4.6	27.2	0.7	28.5	35.1	2.0
52 オスグード・シュラッテル病（膝の骨の異常発達で痛む）の子	21.2	58.9	1.3	11.9	5.3	0.7
53 自閉的な傾向がある子	35.1	46.4	0.0	8.6	8.6	1.3
54 朝礼の時などにうずくまったり、倒れる子	13.2	61.6	4.6	15.2	4.6	0.0
55 視力の低い子	67.5	29.8	0.7	0.7	0.0	1.3
56 左右の視力がひどくアンバランスな子	34.4	53.6	2.0	4.6	5.3	0.0
57 貧血の子	27.8	58.3	2.0	6.6	4.6	0.0
58 高血圧や動脈硬化の子	4.0	27.2	0.0	35.8	31.1	0.7
59 心臓病の子	5.3	69.5	1.3	15.9	5.3	2.0
60 糖尿病の子	8.6	32.5	1.3	49.0	6.6	0.7
61 神経性胃かいようや十二指腸かいようの子	16.6	32.5	0.0	37.7	11.9	0.7
62 脚気の子	0.7	10.6	0.0	67.5	18.5	0.7
63 腰痛の子	60.3	30.5	0.0	7.9	0.7	0.7
64 不登校（登校拒否も含む）の子	64.2	22.5	4.6	7.9	0.7	0.0
65 保健室登校の子	34.4	24.5	6.6	31.8	1.3	0.0
66 床にすぐねっ転がる子	33.1	26.5	2.0	31.1	6.0	0.7

《結果5》

子どものからだの調査 2005
高等学校（n＝105）

以下の項目について、“実感”で該当する欄の番号に○をつけて下さい。 （数字は%）

	からだの活動性	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
1	朝からあくびをする子	33.3	43.8	1.0	1.9	16.2	3.8
2	授業中、目がトロンとしている子	32.4	40.0	0.0	2.9	21.0	2.9
3	授業中、居眠りをする子	46.7	38.1	0.0	2.9	11.4	1.0
4	授業中、じっとしていない子	35.2	33.3	3.8	8.6	15.2	2.9
5	保健室にねむりにくる子	40.0	44.8	7.6	4.8	1.9	0.0
6	なんとなく保健室にくる子	51.4	36.2	7.6	1.9	1.0	1.0
7	休み時間の時など、ボーッとして何もしていない子	22.9	34.3	1.0	4.8	33.3	1.9
8	あまり汗をかかない子	31.4	26.7	1.0	1.9	35.2	1.9
9	すぐに「疲れた」という子	67.6	25.7	0.0	0.0	4.8	1.9

	からだの防御性	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
10	転んで手が出ない子	21.9	45.7	0.0	6.7	21.9	1.9
11	まばたきがにぶい子	11.4	29.5	0.0	6.7	46.7	3.8
12	ボールが目にあたる子	40.0	38.1	0.0	6.7	11.4	1.9

	直立姿勢や動作	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
13	椅子に座っている時、背もたれによりかかったり、ほおづえをついたりして、ぐにゃぐにゃになる子	58.1	25.7	0.0	3.8	10.5	1.0
14	「気をつけ」の姿勢の時、腹が前にでっぱっている子	22.9	27.6	0.0	9.5	36.2	1.0
15	まっすぐな姿勢をした時、肩甲骨の左右の高さやでっぱり具合が対照的でない子	20.0	38.1	0.0	5.7	33.3	1.0
16	肩甲骨の左右の大きさに違いがある子	13.3	25.7	1.0	10.5	46.7	1.0
17	脊柱異常とまではいかなくても、背筋がおかしい子	28.6	39.0	1.0	6.7	21.0	1.9
18	つま先立ち歩きの子	2.9	20.0	1.0	34.3	38.1	1.0
19	つまずいてよく転ぶ子	17.1	41.9	1.9	18.1	19.0	1.0
20	内またのためによく転ぶ子	5.7	27.6	1.0	27.6	34.3	1.9
21	すぐ疲れて歩けなくなる子	18.1	32.4	0.0	21.0	26.7	1.0
22	まっすぐに走れない子	7.6	21.0	0.0	25.7	41.0	1.9
23	棒のぼりで足うらを使えない子	2.9	5.7	0.0	3.8	82.9	1.0
24	力が入りすぎて、ちょうどよい力で動作ができない子	19.0	13.3	0.0	14.3	49.5	1.9

	病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
25	平熱が36度未満の子	69.5	25.7	1.0	1.0	2.9	0.0
26	平熱が37度以上の子	12.4	33.3	14.3	22.9	14.3	1.0
27	手足が冷たい子	58.1	28.6	0.0	1.0	12.4	0.0
28	奇声を発する子	21.0	16.2	1.9	41.0	17.1	1.0
29	指吸いの子	1.0	5.7	0.0	61.9	28.6	1.0
30	爪かみの子	6.7	29.5	1.9	25.7	33.3	1.0
31	よく腹痛や頭痛を訴えてくる子	69.5	29.5	0.0	0.0	1.0	0.0

《結果5のつづき》

（数字は%）

	病気・けが・その他	最近ふえている	変わらない	減っている	いない	わからない	無回答
32	そしゃく力が弱く、食物を飲み込んでしまう子	15.2	11.4	0.0	15.2	52.4	2.9
33	口で呼吸している子	30.5	21.9	1.9	5.7	36.2	2.9
34	自分で症状を説明できない子	63.8	21.9	0.0	11.4	1.0	1.0
35	首すじがはったり、肩がこっている子	61.9	28.6	0.0	0.0	8.6	0.0
36	発音の仕方が気になる子	10.5	38.1	1.0	23.8	22.9	1.9
37	歯ならびの悪い子	33.3	47.6	10.5	0.0	6.7	1.0
38	歯ぐきの色がおかしい子	25.7	53.3	3.8	1.9	13.3	1.0
39	聴力の弱い子	13.3	69.5	1.0	4.8	9.5	1.0
40	体が硬い子	53.3	26.7	0.0	1.0	17.1	1.0
41	異常と思われる肥満の子	24.8	57.1	5.7	6.7	3.8	1.0
42	異常と思われる痩身（やせ）の子	33.3	44.8	1.0	16.2	3.8	1.0
43	鼻炎でプールに入れない子	11.4	28.6	0.0	20.0	36.2	1.0
44	鼻血が出やすい子	18.1	61.9	5.7	3.8	8.6	1.0
45	アレルギー性疾患の子	86.7	11.4	0.0	0.0	1.9	0.0
46	皮膚がカサカサの子	55.2	36.2	1.0	0.0	4.8	1.9
47	ぜんそくの子	59.0	38.1	1.0	0.0	1.0	1.0
48	胸郭異常の子	6.7	65.7	5.7	8.6	11.4	1.0
49	ちょっとしたことで骨折する子	51.4	38.1	0.0	4.8	4.8	0.0
50	骨折しても痛みを訴えない子	14.3	24.8	0.0	43.8	15.2	1.0
51	夜寝ている時、膝などの関節が痛くて眠れない子	3.8	12.4	1.0	33.3	46.7	1.0
52	オスグード・シュラッテル病（膝の骨の異常発達で痛む）の子	12.4	44.8	2.9	23.8	13.3	1.9
53	自閉的な傾向がある子	37.1	32.4	0.0	14.3	13.3	1.0
54	朝礼の時などにうずくまったり、倒れる子	12.4	52.4	2.9	11.4	19.0	1.0
55	視力の低い子	56.2	41.0	0.0	0.0	1.9	0.0
56	左右の視力がひどくアンバランスな子	35.2	56.2	0.0	0.0	5.7	1.9
57	貧血の子	29.5	60.0	1.0	0.0	6.7	1.9
58	高血圧や動脈硬化の子	9.5	27.6	0.0	22.9	37.1	1.0
59	心臓病の子	10.5	79.0	1.9	2.9	2.9	1.9
60	糖尿病の子	10.5	52.4	3.8	27.6	2.9	1.9
61	神経性胃かいようや十二指腸かいようの子	38.1	40.0	1.9	10.5	8.6	1.0
62	脚気の子	1.0	9.5	1.9	61.0	22.9	1.9
63	腰痛の子	71.4	24.8	0.0	1.0	1.0	1.9
64	不登校（登校拒否も含む）の子	60.0	33.3	0.0	3.8	1.0	1.0
65	保健室登校の子	28.6	28.6	1.9	38.1	0.0	1.0
66	床にすぐねっ転がる子	29.5	16.2	0.0	32.4	18.1	1.9